

# 龍ヶ崎市の竹内農場と西洋館の概要

地元で西洋館の存在を知る者はごく一部でした。長い時間が過ぎ、西洋館は藪に埋もれ、人々の記憶からも消えていました。しかし近年、龍ヶ崎市・当 NPO 法人などの調査により、「西洋館」は日本の産業界の陰の立役者、竹内明太郎の別荘で、歴史的にも価値の高い建造物であることがわかってきました。

## 藪に埋もれ廃墟となった西洋館

インターネットで「茨城」「廃墟」のキーワードで検索すると、「竹内農場西洋館」の写真を見つけることができます。いくつかの廃墟サイトでは心霊スポットなどと紹介されています。いったいここで何が起こったのでしょうか？

平成 6（1994）年頃、「元首相・吉田茂」の実家の別荘の西洋館が蛇沼のほりにあるというので、案内してもらったことがあります。うっそうとした笹藪に覆われ、全貌を見ることはできませんでした。笹藪の間から垣間見えるのは、赤レンガの装飾の一部だけ、屋根は崩れ落ち、西洋館の中からは大木が生えていました。赤レンガの壁には、落書きもされていました。昼でも薄暗いこの場所は、まさに廃墟でした。

この西洋館について書かれた唯一の資料は、『<sup>おなぼけ</sup>女化 土づくりムラづくり苦闘百年』という、女化原の開拓史をまとめた大変立派な布張りの冊子だけです。冊子には竹内農場西洋館の建設当時の写真（裏表紙）が 1 枚だけ掲載されています。この貴重な冊子はもう販売されていませんが、龍ヶ崎市の市民活動センターや図書館、牛久市の図書館などで閲覧できます。

西洋館が建つ女化原には、明治天皇が明治 17（1884）年、陸軍の演習を天覧するため御行幸され、記念の「明治天皇駐蹕之地石碑」が、竹内農場の近くに残っています。御行幸に先がけ、津田出が<sup>いずる</sup>明治 10（1877）年から津田農場の開拓を始めたばかりでした。竹内農場西洋館の建設は、御行幸の約 20 年後、大正時代になってからのことです。（詳しくは 6 ページ「女化原開拓の歴史」

をご覧ください。）

昭和の中頃から西洋館は放置され気づけば廃墟となっていました。平成の中頃から当 NPO 法人は西洋館の保存の方法を模索していました。しかし、当時は所有者もはっきりせず、静観するしかない状態がしばらく続きました。

## 再び脚光を浴びる西洋館

この西洋館の周辺が騒がしくなるのは、平成 26（2014）年頃からで、西洋館の周辺で突然に太陽光パネルの設置が開始されたのでした。土地は発電会社の所有となり、西洋館は解体の危機を迎えます。開発を知った龍ヶ崎市は、新たな所有者と交渉の末、期間を区切り土地を賃借することができました。その後、周辺の笹藪は刈り取られ、西洋館は何十年かぶりにその全貌を現しました。

それは、まさに冊子『女化』にある写真の赤レンガの建物でした。しかし、木造の部分はほとんど朽ち果て、失われている部分もあります。屋根はすべて崩れ落ち、地下室からは大木が生えていました。

西洋館を保全するには一体どうしたらいいか見当もつかない状態でしたが、龍ヶ崎市は専門家に調査を依頼し、調査報告書が平成 30（2018）年に公開されました。当 NPO 法人は、この調査報告書等を参考に、西洋館の歴史を調べていきました。

当初、吉田茂の実父の竹内綱が<sup>つな</sup>西洋館を建設したと考えられていましたが、竹内農場の経営は、長男の竹内明太郎<sup>めいたろう</sup>が行ったことがわかってきました。明太郎の

功績を調べると、まさに日本の明治以降の産業の一翼を担った人物です。（詳しくは、12ページ「竹内綱と明太郎」をご覧ください。）

竹内農場の西洋館は、別荘とされていますが、同時期に建築された西洋館（隣の牛久市にある牛久シャトーなど）と比べると、素朴な造りの2階建てです。また、屋根は瓦葺きで、西洋と日本の技術がまじりあった建築だと考えられます。

大きな特徴としては、養蚕のための部屋が広い空間を占め、地下室は養蚕用の桑の葉の貯蔵に使われていたと言われています。当時の内装の写真が残されていないため、遺構から想像するしかありません。（詳しくは22ページ「竹内農場西洋館の建築様式」をご覧ください。）

しかし、特筆すべきは竹内農場の最大の目的が、茨城無煙炭鉱への食糧供給だったということです。牛・馬を放牧し、ジャガイモなどを栽培し、常磐線で食糧として運ばれていったのです。

そして、日本の鉱山の歴史とともに、竹内農場も終焉を迎えました。使われなくなった西洋館に、一時は竹内家の関係者が住んでいたようですが、昭和の中頃には、空き家となり朽ちるにまかせていたようです。

戦中戦後にかけて、何家族かが住んでいたようですが、その経緯は、よくわかっていませんでした。ところが、当NPO法人が平成29(2017)年に開催した「過去、現在、そして未来へと・・・旧竹内農場西洋館イベント」を地元ミニコミ誌などで広く告知したところ、子どものころ西洋館に住んだことがあるという方が現れ、当時の様子を聞くことができたのです。（詳しくは30ページ「最後の居住者真中ハツさんの思い出」をご覧ください。）

竹内農場の庭園については、「桃源郷」そのもののような設計図が残されています。庭園設計図には、「長岡安平」の署名が残っています。長岡安平は、明治維新以



グーグルマップより竹内農場と西洋館があった女化原付近を抜粋

降、全国で城跡や社寺、公園の整備を手がけ、浅草公園、芝公園、飛鳥山公園など多くの公園を設計しました。庭園が設計されたとされる大正3(1914)年当時は73歳でした。（詳しくは28ページ「西洋館の庭園設計」をご覧ください。）残念ながら、この庭園の痕跡は全く残されていません。庭園設計図を見ると、近くの蛇沼までを風景の一部として考えられていたようですが、実際にどこまで実現したのかは不明です。

## 西洋館保存活動にご協力を

西洋館については、まだまだ分からないことがたくさんあります。例えば、設計図は残っていないのか？設計者は誰なのか？

今後この西洋館をどのように保全し、文化遺産として後世にどのように伝えていけばいいのか。様々な意見がありますが、日本の近代の産業史を伝える一助として活用する可能性があると考えられます。

龍ヶ崎市を始め、市民、関連する企業などとも連携して、方向性を見出していくため、この冊子が編集発行されました。これを読んで少しでも興味を持っていただき、竹内農場西洋館の保存活動にご協力いただければ幸いです。